

授業実践 (6) 中学校 3 年生「足袋の季節」

1 主題名 人間のもっている力【内容項目D-(22)人間の強さと気高さ、よりよく生きる喜び】

2 教材名 「足袋の季節」(出典『明日をひらく』)



3 資料のあらすじ

筆者が少年の頃、貧しさと寒さに追いつめられ、大福売りのおばあさんから、釣り銭をかすめ取り、足袋の代金にしてしまう。おばあさんの「ふんばりなさいよ」の一言が、足袋を手に入れることしか頭になかった筆者の心を大きく揺さぶる。その後、自責の念に駆られた筆者は初めて月給をもらっておばあさんに償いをしようと訪ねるが、そのおばあさんは既に亡くなっていた。

4 本時のねらい

人間の中にある弱さや醜さを理解し、それを克服する強さや気高さのあることを自覚し、人間としての誇りをもって生きようとする前向きな態度を育てる。

5 授業の実際

	学習活動◆主な手立て	主な発問(○) 生徒の発言(・)
導 入	1 今までの生活の中で、間違いに気付き、後の生活に役立てた例を知る。	○アンケート結果を見て、どう思うか。 ・テストの丸付けでミスがあったけれど、言わなかった。それでいい順位をもらっても、嬉しくなかった。正直が一番!
展	2 資料の前半部分を読み、“私”の取った行動について話し合う。 【書く活動①】 ◆ネームプレートで、自分の気持ちを意思表示させた。	○自分が“私”の立場だったら、四十銭渡すおばあさんに、正直に間違いを言いますか。 【言う】 ・間違えたままだとおばあさんに悪いから。 ・後で後悔しそうだから。 【言わない】 ・寒い冬を越せる足袋がやっと買えるから。 ・おばあさんがわざと間違えてくれたから。 
開	◆意見交流後、考えが変わった人がいるかどうか確認した。	○【言う】と【言わない】それぞれの立場で意見交流を行いましょう。  おばあさんが気遣ってくれたから、言わない。 貧しいおばあさんをだましてまでお金を取りたくないの、言う。

中学校第 3 学年 道徳学習指導案

1 主題名 人間のもっている力【内容項目 D－(22)人間の強さと気高さ、よりよく生きる喜び】

2 教材名 「足袋の季節」(出典『明日をひらく』)

3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

人は、ときとして人間のもつ弱さや醜さから誘惑に負け、過ちを犯したり失敗したりすることがある。「こうありたい」と思いながらも安きに流され、でも、「こうではいけない」と弱さを克服していこうとする強さも併せもっている。ありのままの自分を謙虚に見つめ、弱さを乗り越え人間としてよりよく生きていこうとする誇りある姿に焦点を当て、生きることへの喜びを感じ取れるようにしたい。

○生徒の実態について

本学級の生徒は、素直で優しい生徒が多く、様々な活動で協力し合うことができる。その一方で、自分の考えを表現したり、うまく人間関係をつくれなかつたりする生徒も多い。中学生の時期は誘惑に負けたり安きに流れたりする傾向が見られる。その中で自分自身に自信を失ったり、劣等感にさいなまれたりする。しかし、理想とする生き方に関心が高まってくるときでもある。様々な人と意見交換をして、失敗を素直に受け止め、人間としてのよさを生かし、弱さを克服し、生きることの喜びを見い出すようにしたい。

○資料について

本資料は、貧しい暮らしをしていた主人公が、ある日、上役の言い付けで行商のおばあさんのところに“もち”を買いに行く。そして、悪いと知りながら足袋がほしいという気持ちに負け、お釣りを多くもらってしまう。あの貧しいおばあさんから金をかすめ取ったという自責の念と励ましてくれたのだという甘い考えが主人公の胸を苦しめ続ける。その後、初めて月給をもらおうと、急いでおばあさんを訪ねるが、すでにおばあさんは亡くなっていた。後悔の中で、おばあさんがくれた心を今度は誰かに差し上げなければならぬと決心する主人公であった。釣り銭をごまかした主人公に焦点を当て、話合いを構成する中で、主人公のもつ弱さと気高さに気付かせたい。

○指導について

指導に当たっては、導入時には、事前アンケートの結果により、ねらいへの意識付けを図りたい。展開前段では、ネームプレートを活用し、自分自身の考えを意思表示させる。その上で、自分が“私”の立場だったら正直に言うか言わないか考えさせ、その理由を全体で交流させることにより、“私”の気持ちを深めさせたい。展開後段では、“私”の心情に寄り添って考えさせることで、ねらいに迫りたい。

4 本時のねらい

人間の中にある弱さや醜さを理解し、それを克服する強さや気高さのあることを自覚し、人間としての誇りをもって生きようとする前向きな態度を育てる。

5 展開

	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
導入	1 今までの生活の中で、間違いに気が付き、後の生活に役立てた例を知る。	○アンケート結果を見て、どう思うか。 ・テストの丸付けでミスがあったけれど、言わなかった。それでいい順位をもらっても、嬉しくなかった。正直が一番！	・今までの経験アンケートの結果を提示することで、資料への導入を図る。
展開	2 資料の前半部分を読み、“私”の取った行動について自分の考えを書く。 〔書く活動①〕 その後、4人グループで話し合う。 〔話し合い〕	○自分が“私”の立場だったら、四十銭渡すおばあさんに、正直に間違いを言いますか。 【言う】 ・間違えたままだと、おばあさんに悪いから。 ・後で後悔しそうだから。 【言わない】 ・寒い冬を越せる足袋がやっと買えるから。 ・おばあさんがわざと間違えてくれたから。 ○【言う】と【言わない】それぞれの理由の立場で意見交流を行う。 ○おばあさんの死を知り、「むしように自分に腹が立ってしょうがなかった。」のは、なぜだろうか。 ・おばあさんに謝ることも、感謝の気持ちを伝えることもできない自分に腹が立つ。 ・初任給で果物を買って謝ろうとしたが、それが叶わず、結局自分が悪い人間のままでいなければならないことへの腹立たしさがある。 ○その後、主人公がくじけずにやり通せたのは、なぜだと思いますか。 ・自分の過ちを忘れることなく反省し、いつかは償いをしようとしたから。	・ワークシートに自分の気持ちと理由を書かせた後にネームプレートで意思表示させる。 ・意見交流後、考えが変わった人があるかどうか確認する。 ・考えを深める手順として、最初に、おばあさんに正直に言えなかったときの気持ちを考えさせる。次におばあさんの死を知ったときの“私”の気持ちを考えさせ、最後に“おばあさんが私にくれた心”について、どのような考えをもったのかを考えさせる。
終末	3 資料の後半部分を読み、“私”の気持ちを考える。	○「おばあさんが私にくれた心」とは、どんなことだろうか。 ・つらくても正直に生きる大切さ。 ・自分がしんどくても人の事を考えることができる優しさ。 ・ずるい生き方をしないで精一杯生きることの大切さ。	・役割分担を決めて、4人グループで意見交流をさせる。
	4 自分の生活を振り返る。 〔書く活動②〕	○自分の間違いに気付いたとき、どのように自分自身が行動していくか、今日の学習を通して考えていることを書きましょう。	・最初のアンケートと照らし合わせて、実生活と結び付けて考えさせる。

道徳ワークシート **足袋の季節**

3 年 () 組 () 号氏名 ()

1、自分が“私”の立場だったら、四十銭渡すおばあさんに、正直に間違いを言いますか。

言 う ・ 言 わ ない

理由

2 「おばあさんが私にくれた心」とは、どんなことだろうか。

授業の感想

これからの自分はどのように生活したいですか？

